

平成 22 年 2 月 3 日

各 位

会社名 株式会社 新生銀行
代表者名 代表執行役社長 八城 政基
(コード番号 : 8303 東証第一部)

平成 22 年 3 月期 第 3 四半期決算について

当行の、平成 22 年 3 月期第 3 四半期(9 ヶ月)の連結四半期純利益は、222 億円(前年同期は、連結四半期純損失 321 億円)となりました。キャッシュベース連結四半期純利益*は、357 億円(前年同期は、キャッシュベース連結四半期純損失 233 億円)となりました。当行単体の四半期純利益は、62 億円(前年同期は、四半期純損失 872 億円)となりました。

ハイライト

- ◇ 中核業務の収益増による業務粗利益の増加、横ばいの経費、与信関連費用の減少により黒字を確保。
- ◇ 法人・商品部門では、業務のさらなる見直しや自己勘定の投資業務等の非中核業務からの撤退を進め、引き続き過去に投資したリスク資産を積極的に処理。
- ◇ 個人部門は、堅調なリテールバンキング業務と、コンシューマーファイナンス業務の安定的な収益貢献により引き続き好調。
- ◇ 安定的な水準の資本比率と十分な流動性を確保。
- ◇ 引き続き不確定要因は残ることから、平成 22 年 3 月期通期の業績予想の見直しは実施せず。

連結決算の概要

- ◇ 業務粗利益:主にコンシューマーファイナンス子会社の新生フィナンシャルの連結効果と法人・商品部門の業績回復により 31.0%増加。
- ◇ 経費:適正規模への組織再編やグループ会社への IT システム導入効果などにより、新生フィナンシャルの直接経費を除いた経費は前年同期比 16.1%減少し、当行グループ全体の経費も前年同期比横ばい。
- ◇ 与信関連費用は前年同期比 21.8%減少したものの、業務環境の変化を適切に反映した、十分な引当水準についてはさらに検討
- ◇ 資金調達コストは 0.85%に低下し、純資金利鞘(ネットインタレストマージン)は 2.52%に上昇。

各事業の状況

- ◇ 法人・商品部門:過去に投資したリスク資産の処理を積極的に行い、それに伴う売却益も計上。
- ◇ 個人部門:リテールバンキング業務では、店舗網を拡充しつつ、従来の預金を中心とした運用からより幅広い資産運用へと変化するニーズへの対応に注力。
- ◇ 個人部門:コンシューマーファイナンス業務では、引き続き事業統合を進め、より信用力の高いお客さまの獲得と IT 技術の活用を通じた経費削減に注力。

流動性および資本

- ◇ 流動性は十分に確保。平成 21 年 12 月末現在の手元流動性は約 1.7 兆円。
- ◇ 当第 3 四半期には、ノンステップアップ型の配当非累積型永久優先出資証券 90 億円およびリテール向け劣後特約社債 50 億円の発行や、当行劣後債の買戻しにより資本の質が引き続き改善。
- ◇ 平成 21 年 12 月末現在の自己資本比率は 10.46%、Tier I 比率は 7.83%。規制環境の変化に対応すべく、資本の質の改善に注力。
- ◇ リスク資産は減少したものの、リスク管理債権と不良債権比率は引き続き比較的高い水準で推移。

平成 22 年 3 月期通期業績予想

- ◇ 平成 22 年 3 月期通期の業績予想の見直しにつきましては、当第 3 四半期決算発表時にご報告する予定でしたが、当行は現在、法人・商品部門において過去に投資した国内不動産等のリスク資産の見直しや、コンシューマーファイナンス子会社における過払い利息返還に対する引当水準の妥当性や、減損について精査を実施しており、これらを踏まえた上で、追加引当、評価損や減損処理について検討し、保守的に手当てすることが考えられ、その場合、通期の業績に影響を与える可能性があることなどから、見送りいたします。

* 純利益(または純損失)からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却とそれに伴う繰延税金負債取崩を除いたもの

平成 22 年 3 月期連結第 3 四半期決算の要点、概要は以下のとおりです。
 (特段の注記がない限り、以下内容は連結ベースで記載しております)

平成 22 年 3 月期第 3 四半期連結業績の要点

(単位: 億円、%)

	平成22年3月期 第3四半期(9ヶ月)	平成21年3月期 第3四半期(9ヶ月)	増減率
業務粗利益	2,492	1,903	+31.0%
純資金利鞘(ネットインタレストマージン)	2.52%	2.26%	-
経費	1,276	1,272	+0.3%
経費率	51.2%	66.8%	-
実質業務純益	1,216	631	+92.7%
四半期純利益(△は四半期純損失)	222	△321	+169.2%
キャッシュベース四半期純利益(△は四半期純損失)*	357	△233	+253.3%
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益**	11.32円	△16.36円	+169.2%
同キャッシュベース(円)	18.21円	△11.88円	+253.3%
キャッシュベースROE(潜在株式調整後、年換算ベース)	8.0%	△4.5%	-
キャッシュベースROA(年換算ベース)	0.4%	△0.3%	-
	平成21年12月末	平成21年3月末	増減率
総資産	115,012	119,491	△3.7%
リスクアセット	79,115	96,210	△17.8%
リスクアセット/総資産	68.8%	80.5%	-
潜在株式調整後1株当たり純資産(円)	316.20円	284.95円	11.0%
自己資本比率(バーゼルII、F-IRB)	10.46%	8.35%	-
Tier I 比率	7.83%	6.02%	-
金融再生法上の開示不良債権比率(単体)	3.46%	2.51%	-

* 四半期純利益からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却とそれに伴う繰延税金負債取崩を除いたもの

** 会計上は希薄化効果を有する潜在株式が存在しない場合、開示しないこととなっておりますが、比較可能性の観点から、上表では記載しております。平成 22 年 3 月期四半期1株当たり四半期純利益は、上記潜在株式調整後1株当たり四半期純利益と同値であります。

当第 3 四半期決算に関する詳細については、以下当行 URL(「決算・財務情報」メニューの中の「四半期決算情報」)をご覧ください。

URL: http://www.shinseibank.com/investors/ir/financial_info/quarterly_results_2009/quarterly_results_2009.html

以上